

フロアコーティング施工時の部分的な弾き現象

トラブル事例 フロアコーティング

問題

M プライマーを適切な乾燥時間 (温度 28℃・湿度 52% で 40~50 分) を置いてガラス系コーティングを塗布する際、同じ条件下にもかかわらず 1 部屋だけ弾きが発生する現象が見られました。十分な換気を行っている環境でも、なぜ特定の部屋だけに問題が生じるのか原因が不明でした。

対応

弾きが発生した際は、塗布したトップコートを拭き取り、#1500 番~#2000 番のサンドペーパーで足付け後に再施工を実施。またはトップコートをモップでアンダーに圧力をかけてアンダーを少し侵すことで弾きが改善されることもありました。

弾き現象の概要

温度・湿度
28℃ / 52%

乾燥時間
40~50 分

発生箇所
1 部屋のみ

協会の見解

弾き現象の要因と対処方法

要因 モップへの油分付着

施工時に使用するモップは、生産工程において機械油が付着していることがあります。この油分がコーティング剤との化学反応を起こしたり、床面に残留すると、床面とコーティング剤の密着を妨げ、弾きや滑りの原因となります。新品のモップをそのまま使用することは避けるべきです。

対処 施工前のモップ洗濯

施工前にモップを洗濯することを強く推奨します。洗濯の際は、油分を効果的に除去できる液体洗剤を使用してください。洗濯により、モップに付着している細かな糸くずも除去でき、仕上がりの向上にもつながります。すすぎは十分に行い、洗剤が残らないようしっかりと洗い流し、十分に乾燥させてから使用してください。

修復 弾き発生時の手順

- ①弾き箇所のトップコートをシンナーまたはアセトンで丁寧に拭き取る
- ②サンドペーパーで足付け作業を行い密着性を高める
- ③3M 製コンパウンドで表面を磨き、研磨粉を完全に除去
- ④トップコートを規定量より若干多めに塗布し均一に仕上げる。各工程を丁寧に、状態を確認しながら作業を進めてください。